

研究ご支援をいただいて

(関西大学社会安全学部 菅原)

- 「SPEEDI」とは何か、それは原子力防災にどのように活かせるのか？（平成28年度）
- 「使えたはず／使えなかった」「公開すべき／すべきでない」の二分法を超えて
- SPEEDIの等身大の姿を踏まえた上で、地域住民を守るための判断に活かす仕組みや知恵の必要性
- 社会科学研究が技術の「中身」にも立ち入る努力をして、初めて見えるものがあることを実感

砂金さんのご研究を踏まえて

(関西大学社会安全学部 菅原)

- 市町村議会における討論の分析が大変興味深い
- 「安全を前提に〇〇」という、しばしば耳にする政策的言説とのギャップ
 - 「安全」がどこか外部に存在していて、それは科学者や専門家が確かめるものだ、という含意？
 - 「安全」が、（ごく狭い意味での）「科学」だけで決まるかのような制度設計
- 原子力ガバナンスの抱えるこの矛盾を、立地地域の立場から補完／批判してきた自治体の役割

私自身の研究から

(関西大学社会安全学部 菅原)

- 「安全目標」： “How safe is safe enough?”
 - 社会的に許容できるリスクとは？
 - 科学的であると同時に、社会的・政治的な問い
 - 新検査制度の評価指標などの背景となるもの
- 地域／社会安全目標
 - 地域社会の特性を踏まえた上で、「許容できるリスク」や目指すべき「安全」の姿とは？
 - 地域社会に存在する様々なリスクのなかで、原子力はどのような位置づけか？